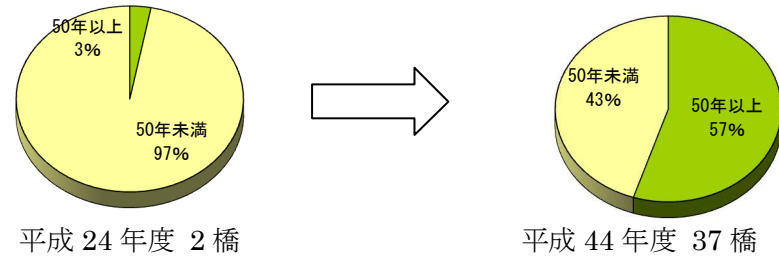


8-1. 小鹿野町橋梁長寿命化修繕計画 概要

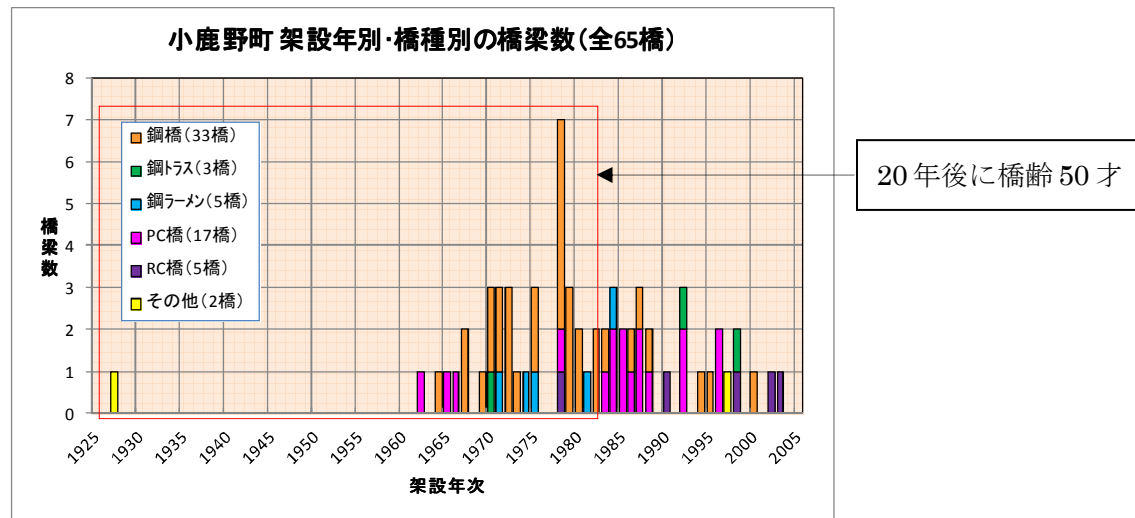
(1) 背景

本町が管理する15m以上の橋梁は、平成24年度現在で65橋架設されている。

このうち、建設後50年を経過する橋梁は、現在全体の3%を占めており、20年後の平成44年には57%程度に増加する。



これらの高齢化を迎える橋梁群に対して、従来の対症療法型の維持管理を続けた場合、橋梁の修繕・架け替えに要する費用が増大となることが懸念される。



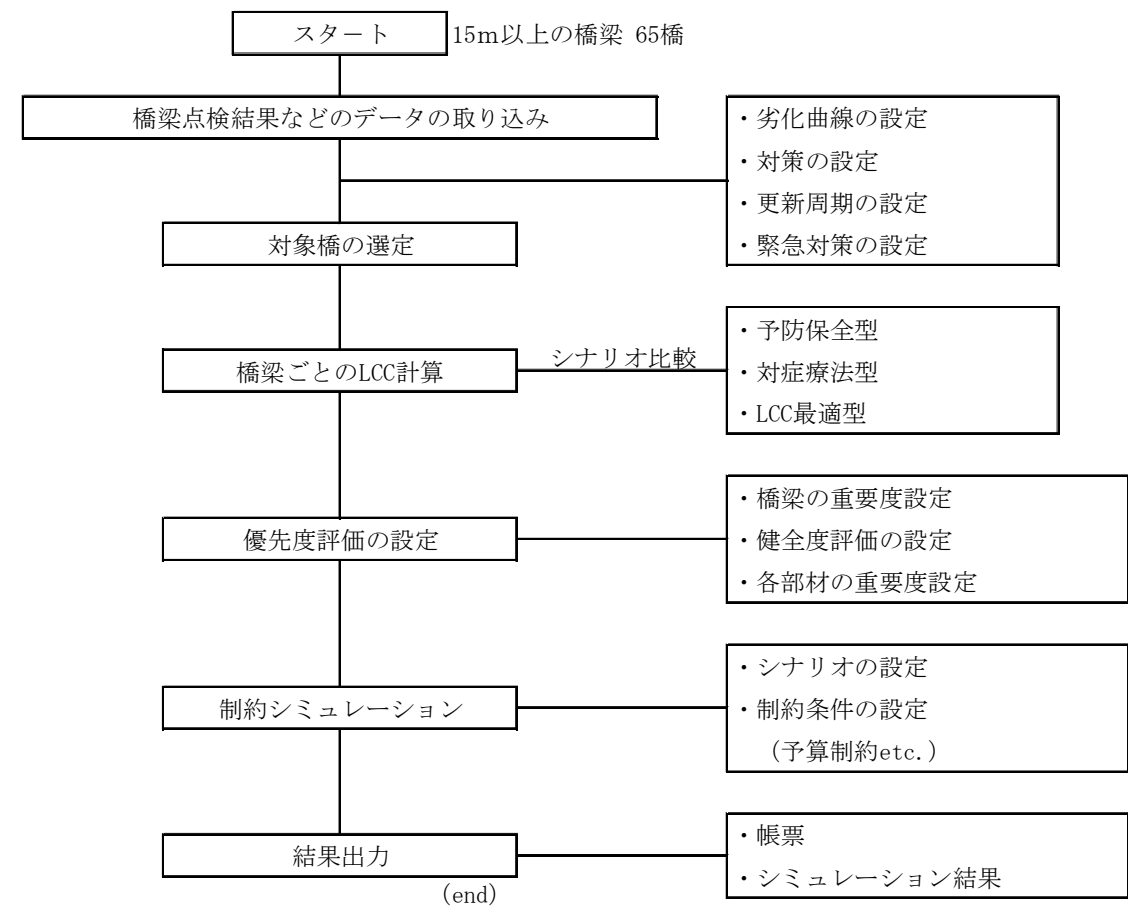
(2) 目的

このような背景から、より計画的な橋梁の維持管理を行い、限られた財源の中で効率的に橋梁を維持していくための取り組みが不可欠となる。

コスト削減のためには、従来の対症療法型から、“損傷が大きくなる前に予防的な対策を行う”予防保全型へ転換を図り、橋梁の寿命を延ばす必要がある。

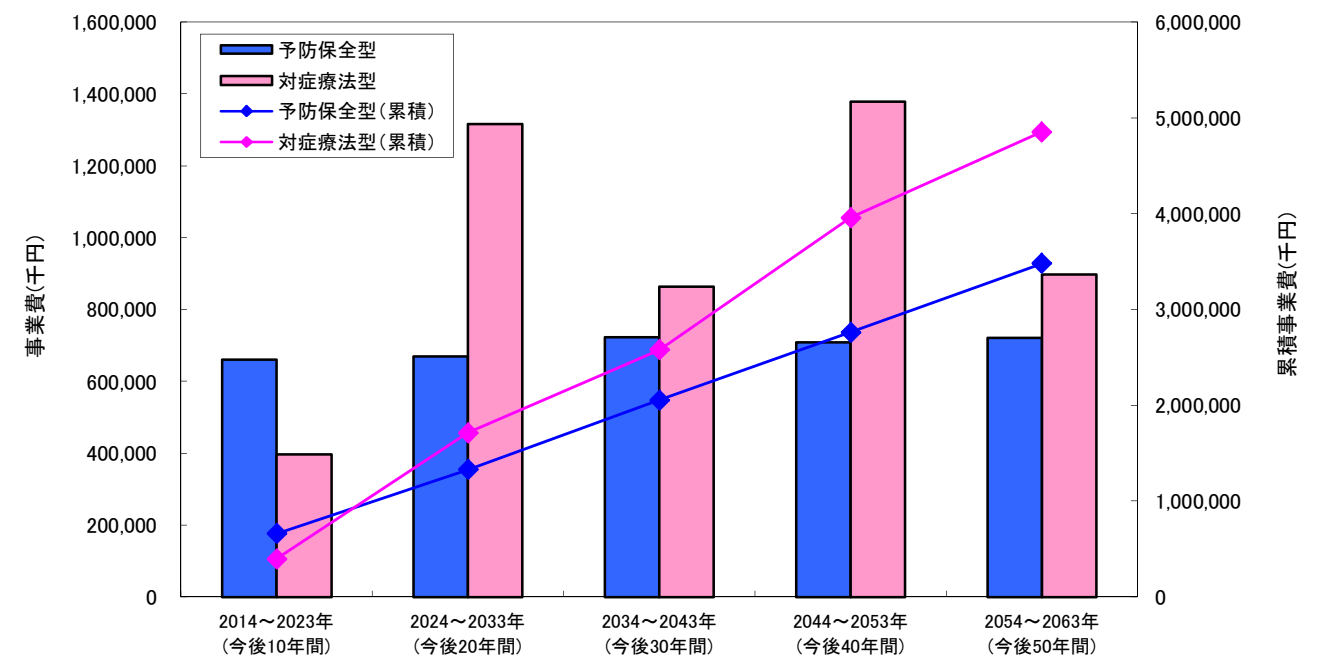
そこで本町では、将来的な財政負担の低減および道路交通の安全性の確保を図るために、橋梁長寿命化修繕計画を策定する。

(3) 長寿命化修繕計画策定フローチャート



(4) 長寿命化修繕計画策定の効果

長寿命化修繕計画を策定する65橋について、今後50年間の事業費を比較すると、従来の対症療法型が49億円に対し、長寿命化修繕計画の実施による「予防保全型」が35億円となり、コスト削減効果は14億円となる。



(5) 意見を聴いた学識経験者

東洋大学 理工学部都市環境デザイン学科 福手 勤 教授